



遠大勵志

第28回高校生フォトコンテスト

写真部大活躍

【岩手日報 6/7 掲載】

第28回高校生フォトコンテスト(県高文連後援)の課題、ノーマ・コーネット・マレックの詩「最後だとわかっていたら」には県内14校の118人から159点の応募があり、岩手日報社で審査した結果、5点の入賞が決まった。

【1席】 「さくらかざり」
谷地星(黒沢尻北2年)



(選評) 病弱な恋人を花見に誘い、一輪の桜を髪飾りのようにつけようとする少年 - という場面をイメージした作品。帽子やパジャマのほか、車いすまで用意し、しっかりと演出した。人物は日影だが、背景の桜に夕日が当たり、真っ白に飛んでしまったのが残念。

(喜びの声) 1席・谷地星さん

今作は少し自信があり、もしかして入賞できるかも……という期待はあったが、まさかの1席という連絡を受けて感激している。

テーマが発表されてすぐに元となった詩を読みながら、撮影する作品のイメージを膨らませた。考えるうちに病弱な少女、恋人、桜の3要素を入れるアイディアが浮かんだ。

当初は桜並木を歩く2人のイメージで撮影を進めたが、作品の主題がぼやけてしまうと思い、はかなさを感じさせる少女のアップに切り替えた。

ニット帽やパジャマ、カーティガンなど闘病中を感じさせる服装と、望遠レンズを使った背景のぼけ感にこだわった。次も入賞を目指して腕を磨いていきたい。

【2次審査通過作品】

「夕暮れ」

渡辺穂香

(黒沢尻北3年)



「最後にもう一度だけ……」

吉田悠馬

(黒沢尻北2年)



【1次審査通過作品】

「無考少女」

細川明日香

(黒沢尻北2年)



【喜怒哀楽：入選を逃したものの、表情が良かった作品】

「ありがとうさようなら」

半揚詩菜

(黒沢尻北2年)



この紙面では、これら作品の素晴らしさが伝わりづらと思いますので、是非ともHP上の写真をご覧ください。

これからの写真部の活躍を大いに期待しています！！

「最後だとわかっていたら」
作：ノーマ・コーネット・マレック、訳：佐川睦

あなたが眠りにつくのを見るのが
最後だとわかっていたら
わたしは もっとちゃんとカバーをかけて
神様にその魂を守ってくださるように
祈っただろう